

平成23年度 鳥取県教育センター スーパーバイザー事業発表会（2）
教育セミナー「とっどりの図書館教育を応援します」実施報告

- 期 日 平成23年12月17日（土）
- 場 所 鳥取市立青谷小学校 多目的室
- 参加人数 49名
- 日程及び内容

時 間	内 容
10:00～10:10	開会・スーパーバイザー事業概要説明
10:10～10:50	事業対象校発表及び協議 「わくわく！いきいき！本（人）との出会い～図書や資料を活用した読書活動の充実と自ら学ぶ力・伝え合う力の育成～」 鳥取市立青谷小学校 教諭 三谷 一孝
11:00～12:00	指導助言「学校図書館は学校のインフラ！」 八洲学園大学 教授 高鷲 忠美
	昼食・休憩
13:00～13:30	倉吉市立久米中学校 教諭 石岩 則子 「読書指導から読書生活指導への転換」
13:30～15:30	講義及び協議 「子どもがデザインする読書生活－新学習指導要領の全面实施と読書指導－」 国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官 杉本 直美
15:30～15:45	まとめ・閉会



- 参加者の感想より
 - ・司書教諭としての役割を十分果たせないまま「あれもなければ…」「これもしたいけれど…」と気ばかりあせり、実際には限られた時間の中で学校教育の充実に向けた仕事をいくらかもできていないと反省する日々です。そんな自分を刺激し実践のヒントをいただきたいと参加しました。「職員の共通理解」の大切さ、有効性を強く感じました。これまで何となくやってきたこと、やった気分になっていたことなど、自分の実践を振り返りながら整理してみたいと思います。青谷小全職員で細かなところから共通理解して積み重ねておられる発表もたいへんわかりやすく、自分と照らしてこれからのヒントになることがいっぱいでした。中学校の実践を聴き、小学校での図書館教育がどのようなにつながっているかも考えるよい機会でした。学ぶことの多いセミナーに参加でき、大変有意義な休日でした。ありがとうございました。
 - ・講師の先生のお話の中で、読書活動を通じて何が大切なのがはっきりしました。子ども自身が力がついたら実感でき、図書館を使ってよかったという実感をもたせることをしっかり自分の中にもっていきたいと思いました。読書記録の取り方、低学年ならどの程度なのか考え、実践していきたいと思います。また、いろいろな教科での取り組みについても柔軟に考えていけたらと思いました。
 - ・青谷小、久米中ともに全教職員で読書活動の充実に向かっておられるところがすばらしい。国語科から他教科、総合的な学習にも図書館の活用を広げて、思考力、判断力、表現力を育てていく実践ですね。杉本調査官の講義がパワフルで、何をどう取り組みればよいかははっきりと理解できました。読書する子を育てていくことを授業の中で学校生活の中で、大事にしていくことが大切です。
 - ・判断、表現力と読書力をどうつなげていくか、また、読書生活力を如何にして生徒につけさせていかれたかというようなことが、よくわかりました。楽しみながら(あるいはやっているうちに)読書のおもしろさや効力に気づく、読書によって変化する自分を感じるということがとても重要だということがわかりました。これからの図書委員会の活動や朝読書の中でできる部分をやっていきたいと思います。

